

Aya Ohzeki
大関 綾

おおぜき・あや●1992年東京生まれ。小学生のころから起業家を目指し、中学3年生(14歳)のときにかながわビジネスオーディションに出場し、月刊アントレ賞と来場者賞を獲得し最年少記録を樹立。3年後の起業を決意し都内の私立女子高に入学するも校則で起業が許されず自主退学。翌年4月に都立小石川高校へ入学。平日の日は勉学に励み、夜間と休日は起業を目指してネックウエアの開発に没頭。17歳のとき、男女用ネックウエアの企画・製造・販売などを手掛ける株式会社ノーブル・エイベックスを設立。以来、代表取締役として経営や商品開発などに尽力している。若き女性起業家としてテレビ、新聞、雑誌などメディア出演多数。

目標を早く定めれば 脳や体がそこに向かっていきます。

若手女性起業家／大関綾

私は中学3年のときに3年後の起業を宣言、ネックウエアのメーカー、株式会社ノーブル・エイベックスを17歳で設立しました。起業が許されなかった私立高校を1年生のときに中退、再受験で入学した都立高校2年生のときです。経営者になりたいと思ったのは小学生のころ。女手ひとつで私たち姉妹を育てている母に早く楽をさせてあげたかった。もうひとつは、身近に尊敬できる経営者がいたことが大きいですね。遠戚の叔父さんが義足製作の会社を経営していました。私は当時からパソコンが大好きで、独学でホームページを制作していたのですが、その過程で画像の加工方法を覚えて、叔父さんからすずに仕事として請け負っていました。

ですので、起業する際、当然IT業界も考えましたが、技術やトレンドの変化のスピードが早すぎます。私は会社を興すからには100年続く会社にしたかったと思っています。また、日本はものづくりで成長してきた国のはずなのに、このまま衰退していく姿を見たくない、ならば私が日本のものづくりの魂を継承する人間になろうと決意し、この世界を選んだのです。もともとわが社のコンセプトは「まだ世にない商品を出していくこと。男性用の新しいネックウエアを開発、現在は女性用ネクタイに注力していますが、今後も新しいものを生み出し世界で展開していきます。平成のココ・シャネルになりたいんです。

これまでの経験から、私は進路や目標はなるべく早い段階で決めたほうがいいと思っています。スポーツや音楽の世界でも世界トップレベルのプレイヤーたちの多くは3、4歳の幼少期から始めることでそのジャンルに適した脳や体を作っています。ビジネスも同じです。なるべく若いうちから目標を定めて修練を積んでいったほうが知識や技術の吸収力が違います。また、年齢が若いほど、失敗しても、何度でもやり直しがきき、チャレンジできます。

大学などで「現在進行形」の起業家としてお話することも増えています。10代20代の若手起業家にとんどん出てきてほしいですね。そのためにはできるだけ早くから「働く」という経験をすることが重要だと思います。